

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立関高等学校 事業実施報告書④

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	生徒会執行部・吹奏楽部・コーラス部・家庭クラブ委員
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 (関特別支援学校交流会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	関高校、関特別支援学校（高等部）両校のスポーツを通じた交流を通して多様性への理解を深め、社会性を高めていくための一助とする。
5 取組内容	<p>○平成29年11月29日（水）15:30～16:30 事前打ち合わせ</p> <p>生徒会執行部役員7名と生徒会担当者2名で、関特別支援学校を訪問。担当の先生方と生徒会役員と顔合わせをした後、当日の内容、スケジュール、担当者の確認を行った。</p> <p>当日行う、車椅子バスケット、ボッチャ、ボウリングの会場を確認した。ボッチャに関しては、競技ルールが十分に知られていないということもあり、生徒会役員同士で（教員も交えて）練習試合を行った。</p> <p>○平成29年12月19日（火）13:20～15:00 交流会</p> <p>本校からは、生徒会役員7名、吹奏楽部27名、コーラス部14名、家庭クラブ2名、の合計50名の生徒が参加し、7名の教員が引率した。関特別支援学校からは高等部28名が参加した。</p> <p>関特別支援学校生徒会の進行のもと、お互いの生徒会長の挨拶から交流会はスタートした。関高校より、吹奏楽部、コーラス部の発表をした後、3班に分かれ、車椅子バスケット、ボッチャ、ボウリングを楽しんだ。</p>





およそ1時間、スポーツを楽しんだ後、両校より最後の挨拶とプレゼント交換が行われた。



	    <p>およそ1時間、スポーツを楽しんだ後、両校より最後の挨拶とプレゼント交換が行われた。</p> 
<p>6 主な成果</p>	<p>本年度で38回目となるこの行事には、毎年多数の生徒が参加させていただいている。一部の生徒ではあるが、自分とほぼ同じ年齢の、障がいを持った生徒が、溢れんばかりの笑顔を見せてスポーツを楽しんでいる様子を見、また一緒にプレイすることにより、大いに感じるものはあったであろう。</p> <p>関特別支援学校の生徒たちと触れ合う本校の生徒たちからも、心からの笑顔が多く見られた。障がいを持った人々を含む社会における多様性の理解と、色々な立場の人々と共に生きていく姿勢の涵養という点で、大変意義のある取り組みであった。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>教員はあくまでもサポート役であり、会の計画・準備から当日の運営まで、基本的に生徒が進めていく。また、関特別支援学校と関高校の生徒が、開閉会式からスポーツ交流に至るまで、役割を分担し、協力し合うことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>参加する団体は毎年同じで、特定の部活動に所属している生徒は毎年交流が深められるが、それ以外の生徒に機会を十分に与えることができない。積極的に有志を募り、より多くの生徒たちに障がい者と障がい者スポーツを理解する機会を与えていきたい。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>伝統ある行事でもあり、また、東京オリンピック・パラリンピックが近づいている中で、障がい者と障がい者スポーツのさらなる理解のために、大切にしたいと考えている。</p> <p>関特別支援学校とは、この行事以外でも、学校祭での交流を続けてきた。今後も引き続きパートナーとして、様々な機会を利用し、相互理解を図りたい。</p>